

有明高専だより

第14号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

Tel 09445 ③ 1011

印刷・西田印刷所



第7回 高専祭

文化講演（11月4日）

九大医学部教授 永井昌文

かれたことは、あまりにも多かったです。

高専祭の文化講演は、永井先生

をどういふ要望が学生につよい旨を

申しあげたところ、多忙な日々を

過ぎておられる先生が、講演を

心よくひきうけていただけたこと

は望外の喜びがありました。

なお、先生のお話は、始めスラ

イドを使われる予定でしたが、

会場の都合で、映画と講演とに分

ければならなかつたことは残念で

した。

講演「海上の道」

（室永記す）

実証的なご研究のお話から、私

たちの胸をおどらせる日本民族成

立の謎の解明へと話題はつきず大

きな構想と精力的な研究活動のい

ぶきが、ゴボーラの貝輪の美しさ

が、含蓄深いお話のいくつかを選

んで載せることにします。

先生が西南日本人の人類学的調

査研究をなされているのは、日本

民族の成立を解明する手がかりが

九州に多いこと、特に古墳時代と

縄文時代との中間にあつた弥生時代

の研究は、人骨の保存状態がらも

九州が最適の場所であるからだぞ

うです。お話は、金剛丈夫先生の

思い出から弥生時代の埋葬習俗、

立岩遺跡の発掘、そして貝の腕輪

に注目し、そこから南方との交渉

を証拠だすことを探撃され、さ

るに、お話をひりがり、弥生時代

から古墳時代にかけて、この腕輪

をはめた人骨が出てくることから

その遺跡の場所をおさえることに

よって、ゴボーラ貝輪の流入した

経路が明らかとなり、それが海上

の道の遺跡となつており、それは

また、弥生時代の一つの部族の移

動の経路をしめすものとなるので

はないか。それを運んだのはどん

な人たちか。同じ弥生時代の人で

も、九州の北部と南部では形質的

に違つてあるから、南から入った

海洋文化をもつた人達のうちに、

弥生の頃、大陸の先進文化をもつ

た人達がどうと入ってきた時代が

ありはしないか。

▲ある貝輪の秘密—北部九州
古代人が着装していた貝輪の謎を
解明することを中心、日本民族
と南方文化との関連を述べる。▼

高専祭に九州大学医学部解剖学
教室の永井昌文教授をお招きして

講演をしていただいた。先生は、
西南日本人の調査研究に活躍され
ておられるが、最近の御研究で、
弥生遺跡から出土する美しい貝の
腕輪が、南海でとれるホゴーラ貝

であることを明らかにされ、日本
古代社会とはどのような関係にあ
つたのか。

講演をしていただいた。先生は、
西南日本人の調査研究に活躍され
ておられるが、最近の御研究で、
弥生遺跡から出土する美しい貝の
腕輪が、南海でとれるホゴーラ貝

であることを明らかにされ、日本

古代社会とはどのような関係にあ
つたのか。

事務員（出納係） 猿渡 素季
(10月22日 結婚された)

日本のお山富士山はたとえども
和田富士と呼ばれ、毎年多くの
登山者を招いていたのである。私が
ことを訪れたのも、このさう黒て
の山剥り山を一度は登ってみたい
と思ってみたからだ。

和所夜間登山

不二郎

北海道の最北端「国領の里」和
内から西へ五三・Km、日本海に浮
ぶ周囲約六〇Km、面積一八四K
m²の丸い小さな島がある。利尻島
私はこの夏の日を訪れた。

利尻島は以前リーシンと呼ばれていたらしいし、アイヌ語でリート
は高い、シリとは島という意を表
わし、合わせて高い島つまり高い
山のある島という意味である。も
ちろん高い山とは利尻山である
とはいってもいか。利尻山は
海拔一七一八メートル、高さとしては九
州の久住山よりも低く、そつ高い
とはいえない。しかし、周囲が海
であるため登るにはかけ値なしの
高さであり、捨・穂高等の高差
よりも高く、洋上からながめるそ
の姿はおそらく高く見える。又
山が島の中央部に位置し孤峰である
ため、どの位置からもあおぎみる
ことができる。コニーテ形の成層火
山は、その透形の美しいことから
日本一の山草十山にたどえられ、
利尻富士と呼ばれ、毎年多くの登
山者を招いているのである。私が
こを訪れたのも、この若い果て
の山利尻山を一度は見たい
と思ってみたからだ。

登山口より一時間半
では平凡な道道である
くのとした登りであ
る。石畳のはじいた
道はひびいたとして非
常に歩きにくい。先頭
にサブリーダ後尾に私
を配した一行は、白い
月明りといくらかの懐
中電灯をたよりに、行
く手に浮び上がり、黒々とした巨
大な山のシルエットをめざして歩
いていた。三分も歩いたつい
に車道は切れ道は細くなり、その脇
に一合目の標識が立っていた。短
いアプローチは終わり、これから



洋上はるか利尻富士

やら森本の日本へはいりてしる。それが「熊はないかしら。」といった。私はさうきに「Uの島には熊も蛇もないから大丈夫…。」と声をかけた。

北海道の山で最も注意しなければならないのは熊である。それもひ熊である。私は熊に対する知識は皆無であるが、ひ熊は本州に夢む月の輪熊よりも形が大きくて、性質もかなりの狂暴で、道内の山に300頭くらいは棲息しているといわれる。数日前私が大雪山を

内蔵はあるが眼球までもなく、残されたのは骨と皮だけであったそうだ。全く聞くばかりでその惨事には目を離したくなり、このよのな惨事は一度こうして返えされではないので、北海道の山を登山する場合には、事前に目的の山域についての熊出没に関する情報や、営林署、あるいは町役場等

は五時間近くあり、仲々いいべ
スである。
三合目は最初の水場でこれから
先七合目までは水はない。この水
場は朝になって気がいたことで
あるが、大変いい水場で、甘露泉
と呼ばれる湧水だと聞いていた。近
くはシーズン中、コーラやショ
ースも販売されているが、やはり
岩の間から湧き出る水は何物にも
かえ難い山の味がする。自分の生
命くらいのことを思ふから不思議だ

までも続いている。長官山（二一八m）の上には月がかかり、光と影の芸術をかもしだしているがこのあたりがこの「油コース」の大の難所で、先程まで元気だった仲間が一人又一人と疲れを訴え、足どりが乱れてきた。私はリーダーである以上彼女達を残して行くわけにはいかず、サブリーダーに命じて他の元気な仲間を先に行かせ、私は彼女達と一緒に歩いて行くことにした。彼女達の大きなお尻を見ているといかにも苦しそうにゆれている

昭和47年11月15日 第14号 —2— 有明高専だより
久保田鉄工が昭和45年10月に設立したクボタトレーン(株)という会社を作っている会社です。この会社と久保田鉄工が昭和45年10月に設立したクボタトレーン(株)という会社の私の現在の職場なのです。新しい会社なので自由にやるが出来る点はあります。この業界では新顔のため苦労する点も多々あります。私の担当は農業なので特にその風当たりは強いと言えます。実を言うと、この農業強化のために私はアメリカへ養成されに行ったりました。五ヵ月間の研修中はいろいろな事もありましたが、やっとのことで卒業証書をもらい、帰国してきました。

トレーン社は一年に二回この研修コースを持ち、その隣アメリカ国内ばかりか、世界各地から自社設立会社のセールスマンを呼んで農業技術の講座を持つのです。この会社はかなり古くから技術と歴史を持ち合せていますが、内外の需要増加に伴いこの10年間に急速に上昇した会社でその要となつたのが、セールスマンの養成だったと言われています。もちろん能

アメリカ留学記

—ト レーン 社 研 修 —

どんづん震盪とおれでぬあはす。
そつ言つたことじて研修には 日
本のクボタトレーンより私を命め
てよ人、イギリス・フランス・ペ
ルギー・オランダ・タイ・シンガポ
ール・フィリピン等の外國勢が
25名程度、それにアメリカ各地
の25名程度の計50名程のクラスで
した。場所はウイスコシン州の
ラ・クロスといつ小さな町です。
朝一時半より夕方4時
半までが出勤時間でした。
この町はシカゴまで
車で4時間といつ
ひでしたが私はもう
ぱらラ・クロスに留
まつておりました。夏
になると避暑地として
最高に良い所ですが、
冬場は非常に寒くて零
下20度Cを記録するも
とあります。あとと
も今年は暖冬でやわら
れを下りました。また雪でも日
本の雪みたいでなく、むしろ乾燥
したみたいなものでした。アベー
ト住いでしたけれども衣食住には
何も不便を感じませんでした。こ
の地方は、ほとんど白人で人種的
な問題等もなく、また田舎の人
達は親切でした。しかし旅行など
をしていて町が大きくなるにつれ
て、その中のいろいろな問題点及
び大國の欠陥を見つけられた感
じもします。

たところもあり、私自身も知らないことが沢山あると思います。いずれにしてもアメリカは土地、資源が豊富であることは一目瞭然でした。あの辺の広大な土地と緑を少しでも日本に欲しいなど強く感じた今日この日です。

當時アメリカの大学も夏休み中ではあったが夏期セッショニに参加している学生も相当わい、彼らとは三、四年次、大学院生となるとよく勉強するようだ。州立大学では学位B.A.(学士相当)を取るのが約50%でむつかしいものらしい。工学、医学はことにむつかしいそうだ。いわゆる留学生ではなく、一単位でも落すと「ハイサヨウナラ」だ。ただし程度によってはカムバックも可能とか。

女子学生はジーパン、ホットパンツ、パンタロン姿が圧倒的に多いが、パーティや劇場へはロングドレスでお出でやかになる。

ロングスリーブはサンフランシスコより暑いが日本よりはすこし涼しい。

空気が乾燥しており、景色も日本のそれとは趣きが異なる。時速百五十キロで何時間もとばして人家がないところがある。沙漠とハイウェイの対照は変な感じのものだが、夜になると私の心を黄金色の月がロマンチックにする。

西部どこにアリゾナ、ネバダ、カリフォルニアなど雨が少く、緑樹も多い。観光地に行ってもなんとなくカサツに感じる。日本の景色の静けさ、ことに秋の紅葉のすばらしさを想起。

アメリカ人にとって日本人とは

は東洋人系のアメリカ人としか見ないだろ。合衆国だから。しかし有色人種に対する偏見はあるとうで、日本人に対するそれもボンノリ感じる。

彼らは言う「日本は優れた工業国だ。人々も勤勉だ。アメリカ以外であればどう優れた国はない」と。ただこれだけしか彼らが日本人を見ていないのは少々悲しい気がする。

でも世界が近くなったら人間同志、どこの國の人でもお互いに理解できるようになりたいものである。

7月1日	建4年
9月4・5日	機3年
日本オイルシール工業熊本工場	
9月18・19日	化2年
三菱重工業長崎造船所	
三菱電機長崎製作所	
10月4日	教育
ブリヂストンタイヤ熊本工場	
10月12日	教育
九太研	津屋崎（記事六面）
10月13・14日	機4年
三菱重工業長崎造船所	
三菱電機長崎製作所	
10月18日	化3年
ブリヂストンタイヤ久留米工場	
日本ゴム久留米工場	
10月19・20日	電5年
三菱重工業長崎造船所	
三菱電機長崎製作所	
10月23日	機3年
三井三池製作所	
10月26日	電4年
三菱電機熊本工場	
九州電力黒川第一発電所	
11月7・8日	建2年
佐賀県元	

普通に歩いておれ

三井東庄化学大牟田工業所

۲۰۱

